

令和の中学校英語教科書における児童文学教材

三枝 和彦

1. はじめに

学校教育で使用される英語教科書は、日本人が英語文学に出会う場となってきた。読書がまれな行為になっている昨今、教科書が果たすそのような役割はいつそう貴重なものになっていると言えよう。その一方、日本の英語教育において英語文学は次第に重みを失ってきた。口頭でのやり取りと実用的な英語を重視するカリキュラムの中で、その取り扱いが軽くなっている。では、令和の英語教科書で英語文学はどのように教材化されているだろうか。本報告では、日本の英語教育における文学教材の位置づけの変遷や中学校英語教科書に収録された文学教材を概観し、続いて、現行の中学校学習指導要領（平成 29 年告示）に準拠した英語教科書所収の英語文学教材を分析した。シンポジウム全体のテーマが「児童文学と汎用性」であることから、特に『アリス』や『ピーター・ラビット』など、繰り返し教科書に登場する児童文学作品の他、絵本作品を基にした教材を取り上げ、英語教材としての意義や原作への橋渡しとしての役割について考察した。

2. 日本の英語教育における文学教材

明治から現在に至るまでの日本の英語教育における文学教材の位置づけについては様々な先行研究があるため、最初期の包括的な研究であり、引用されることも多い江利川（2008）などを参照して概観するととどめた。明治期から昭和初期は文学作品が主要な教材であったが、戦時体制下になると語学に実用化が求められ、科学技術や政治、経済、外交など時事的な内容の教材が増加した。戦後の英語教育は、当初こそ文学重視であったが、実用的コミュニケーションが重視されるのに反比例して文学の比重は下がり続けてきた。

3. 学習指導要領上の文学教材の位置づけ

実用的なコミュニケーション重視の方針は、特に 1990 年代から強まっている。田口（2017）によれば、中学校学習指導要領の 1989 年改訂版では「目標」に「コミュニケーション」という言葉が初めて使用され、1998 年改訂版では「実践的コミュニケーション」能力を養成するために「実際の言語の使用場面の例」や「言語の働きの例」を考慮した教材の使用が推奨され、2008 年改訂版では「コミュニケーション能力を総合的に養成する」うえで有用であるという理由から、実用的な教材への志向が強まった（p. 2）。また、高橋（2015）はこの期間に出版された英語教科書や出版社の動向を調査し、指導要領に実践的コミュニケーション能力の養成が明記されたことが文学教材に多大な影響を及ぼしたことを明らかにしている。例えば、三省堂の *New Crown* シリーズでは正課教材から文学が姿を消し、身近な話題を日常的な英語で書いた教材が増加した。文学教材が豊富であった *New Total English* シリーズは、発行部数の大幅減少で出版社が倒産してしまい、別の出版社に引き継がれてからは日常的な題材満載の教科書に様変わりした（pp. 33-38）。学習指導要領は文学教材にとって、まさに「いじめっ子」（江利川, 2008, p. 81）のような存在なのだ。

コミュニケーション重視がさらに進められた現行の学習指導要領では、「物語」を「読むこと」の指導において概要を正確に把握したり、内容にふさわしく音読したりする活動が指示されている。また、「話すこと」や「書くこと」の指導において、読んだ内容を材料にして表現し合うことが求められている。文学教材には外国語が使用されている国や地域の社会、習慣、文化などが反映していることから、「異文化理解」を図る教材としても位置づけられている。文学教材を説明的な文章と同様に読ませようとするのは、文学を教材にする意義が薄れてしまうようだが、「音読」の際に登場人物らしく読んだり、喜怒哀楽の感情を豊かに表現し合ったりする活動を提案している点は、文学教材の特徴を活かそうとしていると言える。

4. 中学校英語教科書に収録された文学教材

本報告者の研究（2024, 2018）を引用し、現行の中学校英語教科書（2020 年 2 月検定済）における文学教材の割合と教材名、及び比較対象として旧指導要領（2008 年告示）準拠の教科書（2015 年 3 月検定済）に収録された文学教材を示した。いずれも 6 社から出版されている教科書 3 学年分を調査した。文学教材の定義は先行研究でも様々だが、本報告者は文学教材を幅広い意味でとらえ、英語文学作品を基にした教材の他、日本語を含むその他の言語で書かれた作品の英訳や、伝記、ポピュラー・ミュージックなども含めている。

教科書に占める文学教材の割合は、3 学年全体で 9.1%、学年ごとでは 1 年が 6.1%、2 年が 9.2%、3 年が 12%

だ。学年が上がるにつれて増加するのは、1年生の前半は小学校との橋渡しで文章がほとんどないことや、習熟度に合わせて長文が増えていくことが理由だろう。出版社別に見ても概ね学年が上がるにつれて増えているが、3年間をとって文学教材の少ない教科書もある。戦後の中学校英語教科書には常に1割程度の文学教材が使用されてきたことを踏まえると（岡本, 1992）、令和に入って文学教材の割合が減少したわけではない。

具体的な教材はリーディング教材のみを示したが、英語文学の範疇では、Lewis Carroll や O. Henry、Arnold Lobel、Beatrix Potter、Mark Twain などの作品を基にした教材がある。O. Henry の短編を掲載した教科書は旧課程で4点あったのが2点に減少し、Arnold Lobel の作品は3点から2点に減少したが、新たに Mark Twain の *The Adventures of Tom Sawyer* が2点の教科書で掲載されている。一方、英語文学以外の作品、特に『スーホの白い馬』や『ごん狐』などの原作が日本語で書かれた教材が目立つ。戦争や原爆に関する物語教材に加えて、俳句や落語、狂言などの日本の伝統文化、芸能とともに、日本の文学作品が増えているのも近年の教科書の傾向だ。有名な英語文学作品を基にした教材が減少する代わりに、文学教材は多様性を増していると言えそうだ。

教材は「英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から」取り上げるため（文部科学省, p.98）、文学教材の分量や選定については妥当と言える。問題なのは教材としての作り方だ。ほとんどは正課教材ではない Let's Read などの読み物教材で、巻末の付録である場合も少なくない。その多くは教材として作りこまれているわけではなく、単語表の他に物語の基本的な情報とあらすじを確認する問が付されている程度だ。中学段階の英語力では議論を通じて物語の理解を深めるような活動は非常に困難だが、教材の作り方を再検討する必要があるだろう。

5. 具体的な教材の分析と考察

現行の教科書に収録された児童文学作品を基にした教材について考察した。教材名とポイントは以下の通り。

- ①“*Alice and Humpty Dumpty*” (*New Crown English Series 1, Reading for Fun*, pp.144-147)
「英語文学作品と親しみ、言葉の面白さに対する気づきを促す教材」
- ②“*Peter Rabbit*” (*New Crown English Series 2, Lesson 1*, pp.8-14)
「正課教材として編集された物語教材」
- ③“*The Letter*” (*One World English Course 1, Further Reading*, pp.126-130; *New Horizon 3*, 名作鑑賞, pp.120-122)
「原作と Retold 版を読み比べることの有用性」
- ④“*I'll Always Love You*” (*New Horizon English Course 2*, 名作鑑賞, pp.131-133)
「現在形と過去形で表された動詞：時制の理解に役立つ物語のすじ」
- ⑤“*Gon, the Little Fox*” (*Sunshine English Course 2, Reading 1*, pp.44-47)
「日本語の文学作品を英語教材として読むことの意義」

6. おわりに

現在の文学教材のほとんどは、単純に文章を読ませて事実を確認するような簡略なつくりである。正課の教材として作りこまれた文学教材が増えることを期待する一方、文学教材を活用できる教員を養成することを忘れてはならない。本報告者が勤務する教員養成系の学科で英語の免許取得を志す学生でも、(英語)文学に関心を持ち、読もうとする学生は年々少なくなっている。優れた文学教材があったとしても、その作品を読んだことがなく関心もなかったとしたら、授業で活用するなどおぼつかない。中学生に英語文学との印象深い出会いを経験してもらうためには、まずは教員志望者に英語文学を面白いと思ってもらう工夫が求められよう。

引用参考文献

- 江利川春雄 (2008). 『日本人は英語をどう学んできたか—英語教育の社会文化史』 研究社
- 岡本有里 (1992). 「中学校の英語教科書にみられる文学作品の変遷」『KELT』第8号, 62-76.
- 三枝和彦 (2018). 「中学校英語教科書における文学教材を考察する—アーノルド・ローベール作「お手紙」を例に—」『山形大学紀要 人文科学』第19巻1号, 1-16.
- 三枝和彦 (2024). 「中学校学習指導要領(平成29年告示)に準拠した英語教科書に収録された文学教材の傾向」『山形英語研究』第20号, 29-44.
- 高橋和子 (2015). 『日本の英語教育における文学教材の可能性』 ひつじ書房
- 田口誠一 (2017). 「中学校英語教科書のリーディング教材研究」『尚絅大学研究紀要 人文・社会科学編』第49号, 1-14.
- 文部科学省 (2018). 『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 外国語編』 開隆堂